

いのちは続いている

私の母のお母さんは、今はこの世にいない
祖母は、六十歳の誕生日を迎えたばかりで
亡くなってしまった

昨日、母と祖母の話をした

祖母の家に泊まりに行く

きれいな柄のふとんを出してくれ

どれにするかを決めるのが楽しみだった

夕食は、ほとんどと言っているほど

「からあげ」だった

「ほのちゃん、これお願いね。」

私は下味のついたとり肉に

片くり粉をまぶす手伝いがとても好きだった

そんな時母は

そばにいて、ほほえんでいた

祖母が亡くなった日、私も一緒に病室にいた

医師から、亡くなったことを告げられると

母は、私の手を強くにぎった

私は、母にしがみつき大きな声で泣いた

ふと見上げると

母は今まで見たこともない

悲しい顔をして泣いていた

そして私は

「これからは、私がお母さんを守るからね。」

と言った

私が大人になり母となった時

母と私の子供が

「今日ほどのふとんにしようか。」

「夕食は、からあげだよ。手伝ってね。」

…そんな会話をするのかな

そして私は

そのそばでほほえんでいた